

大手紳士服チェーンが リユースFCに加盟する時代が到来

紳士服チェーンの最大手の青山商事の子会社、カジュアルランドあおやま（青山理社長）が、今年1月、リユース事業でセカンドストリート（本社・高松市、久保幸司社長）と加盟契約を結んで話題を呼んだが、今度は、同じ紳士服チェーンのコナカ（湖中謙介社長）のグループ企業がリユースショップの「リサイクル古着屋 ドンドンダウンオンウェンズデイ」を運営するドンドンアップ（旧ヘイブ、本社・岩手県盛岡市、岡本昭史社長）と加盟契約、今後も紳士服チェーンがリユース事業に参入しそうだ。

ドンドンダウンに加盟したのはコナカの非連結子会社のアイステッチ（二田孝文社長）で、6月5日の大和店オープンを皮切りに瀬谷阿久和店、厚木店など一挙に5店を出店、8月末までに合計15店をオープンするというスピード展開だ。コナカは2010年9月期下期に半期では過去最大の30店の閉店を見込んでおり、これら

旧コナカをドンドンダウンへと業態転換を進めていくようだ。

一方、前述のカジュアルランドあおやまは、現在総合リサイクル「セカンドストリート」、衣料品リユースの「ジャンプストア」のそれぞれ1店の出店にとどまっている。

コナカは昭和48年の設立以来「紳士服コナカ」をチェーン展開、店舗の多くは郊外のロードサイド型の店舗で、現在全国に287店を擁している。ドンドンアップによると「売場面積や商圏人口、店舗の視認性などにおいて好立地物件が多いため、ドンドンダウンに業態転換して成功できる可能性が高い」（広報）という。

また、経済産業省の商業統計でも中古品市場は2011年には1兆円に達すると予測、その中でもドンドンダウンのような中古衣料市場は約4割の4000億円に上ると見られ、数少ない成長市場だ。コナカやアイステッチはリユース事業の将来性、成長性に着目、ドンドンアップとの包括的FC契約を締結したようだ。

アイステッチは洋服のリフォームショップ「お直しピット！」を6店展開していることなどから、ドンドンダウンのビジネスモデルである「使える物をできるだけ長く使うことが最もエコロジーだ」という方向性を理解していると見られ、ドンドンアップは「アパレルリサイクルで日本一を目指す当社」と、今回の包括的FC契約に期待を寄せている様子。

また、コナカグループの1社であるコナカエンタープライズ（山崎薫社長）はメガフランチャイジーとしても知られ、ペーカリーレストラン



この8月1日にヘイブから「ドンドンアップ」に社名変更した岡本昭史社長

「サンマルク」6店、インターネットカフェ「自遊空間」6店、大衆食堂「半田屋」3店を経営。本体の湖中社長もFCビジネスへの理解の深い人物とされ、その点でもドンドンダウンの出店に弾みが付きそうだ。

ドンドンダウンは05年の第1号店のオープン以来、全国展開を目指し「毎週水曜日になると値段がドンドン（下がる）ダウン」「どんな服でもドンドン買い取る」など独自の買取・販売システムで幅広い客層から支持を得ている。最近ではテレビの情報番組などから「不況が追い風になるビジネスモデル」「生活の中にエコを取り入れられる」などと注目される機会が増えている。ドンドンダウンはこの8月中に50店舗を突破する勢いだ。

かつて紳士服チェーンを静岡県中心に展開していたゴトー（後藤行宏社長）は、今や「ブックオフ」や「TSUTAYA」などへのFC加盟によるフランチャイジー事業がメインの企業へと生まれ変わっている。紳士服チェーンの再編・淘汰の動きは今後も続きそう、特にリユースFCを活用する場面は多くなりそうだ。



紳士服のコナカの子会社との提携で出店に弾みが付いた「ドンドンダウンオンウェンズデイ」。瀬谷阿久和店は「紳士服のコナカ」からの業態転換店